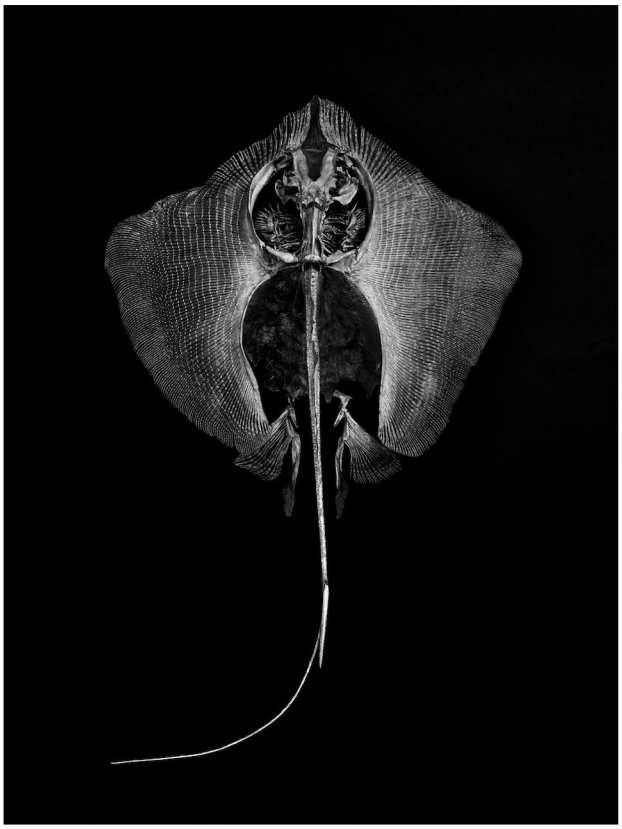

湯沢英治 写真展

REAL BONES S

2014 6.14(sat) - 7.10(thu)

Opening Reception　6.14(sat) 18:00 -

tokyo arts gallery
東京都渋谷区東2-23-8　Tel.03-6427-6665　info@tokyoarts.com
http://www.tokyoartsgallery.com/

湯沢英治は、「骨」という造形美を「進化がデザインした究極の形」、すなわち、時間という刃によって削り出された彫刻であると考える。このように、美術としての意識の上に表現され、「REAL BONES」の作品は生み出されている。

また、「視覚で捉えられない世界を作り出すことが作家の使命である。」との思いから、作品には精緻な演出がなされている。共著者である獣医師の東野氏が、撮影のために頭骨、部位、全身と骨格を作り出しており、入手出来ない骨格は、精巧な作りの骨格標本を国内中から探出し、自らが撮影に出向いて行く。さらに、海外からも手配したその骨たちは、一部を除き自然光で撮っており、強い光と影のコントラストにより、新たな造形に作り出されている。

今回の展示では、「REAL BONES 骨格と機能美」（早川書房刊）で発表された作品を中心に、大型パネル数点を混じえ、迫力ある圧倒的な美しさを楽しんでいただきます。

Profile

1966年横浜市生まれ。1991年より独学で撮影技術を学び。普遍的な事物をモティーフとした作品を撮り続け、個展も多数開催。2008年、 写真集『BONES動物の骨格と機能美』刊行により、スタイリッシュな骨格標本の写真と詳細な解説文から、アートとサイエンスの融合に成功。これがアートと生物学双方の観点から話題となって多くの新聞・雑誌で高い評価を得る。同年、資生堂『よむ花椿』No.702（SILHOUETTE）にて仲條正義氏とコラボレーション。2009年には財団法人三宅一生デザイン文化財団21_21 DESIGN SIGHT 第5回企画展 山中俊治ディレクション「骨」に参加。2010年には「水」の造形美をテーマにした『シュルレアリスムの水』、「フランス」の造形をテーマにした作品『仏』(Ricoh Photo Style Photographers Gallery)を発表。また、『仏蘭西-巴里の造形と色彩』TAMRON(B011ｶﾀﾛｸﾞ)もある。

2011年には Nielsen photo groupが出版するｱﾒﾘｶの写真専門誌PDN(Photo District News)12月号に取材記事と写真集『BAROCCO』から6点の作品が掲載される。2013年「REAL BONES -骨格と機能美」を早川書房より刊行。